

# 地域生活訓練ホームにおける集団音楽療法

## 対人関係の変化に見られる対抗的関係の考察

藤井文香・生活訓練ホームあけぼの

### ●はじめに

地域生活訓練ホームでは、在宅重度障害者の社会参加を目的とした訓練が行われているが、通所者は時間・空間を共にしてはいるものの、心理的な関わり合いは希薄である。しかし、集団による音楽活動の経過の中では、対人関係に変化が見られるようになった。

### ●目的

集団音楽活動が、その集団と個人に及ぼす影響を、対人関係の変化から考察する。

### ●対象・方法

(平成13年3月現在)

対象者	A	B	C	D	E
年齢・性別	27歳・男	24歳・女	20歳・女	24歳・女	27歳・男
障害	左片麻痺	脳性麻痺	肢体不自由	水頭症	右上肢不全
移動	自立歩行	車椅子	介助歩行	車椅子	自立歩行
表現	音声一音	内言語有	表情(顔)	表情(顔)	音声一音

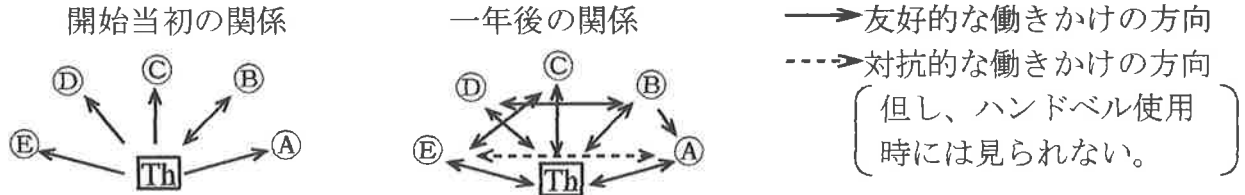
日時：毎週火曜日AM11:00~12:00

介助：約5名が対象者の間に入る。

楽器：エレクトーン・タンバリン・鈴・ハンドベル・旗等

内容：準備・導入・歌・動作表現・旗を使用した運動・自由行動・合奏・鑑賞・評価・片付け等

### ●結果



ソシオグラム方式による対人関係図 (松井紀和著・音楽療法の手引き参考)

### ●考察

対人関係の変化の中で、AとEの対抗が生じるには、上図の対象者覧より両者が同等で、座席位置が対面である等の要因が推察される。両者間の対抗は、当初の希薄な関係に比べ、心理的関係が発生した事になり、それが集団全体にも作用している。しかし、ハンドベル使用時には対抗は見られず、各々が担当した音の役割を演じているものと思われる。

### ●結論

集団音楽活動により芽生えた個々の対抗や役割意識等は、集団形成の過程に作用し、対人関係に変化を与えた。このような現象は、発達上の問題はあるものの、健常者の人格形成の過程と同様であり、重度障害者においても、集団音楽活動の意義を考察する事が出来た。